



新毎日

10月10日(金)
2014年(平成26年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

号外

女性・子供の人権訴え

マララさん平和賞

ノーベル賞最年少17歳

【ロンドン小倉孝保】ノルウェー・ノーベル賞委員会のヤーグラン委員長は10日、パキスタンのイスラム武装勢力



サティヤルティさん
＝ゲッティ共同

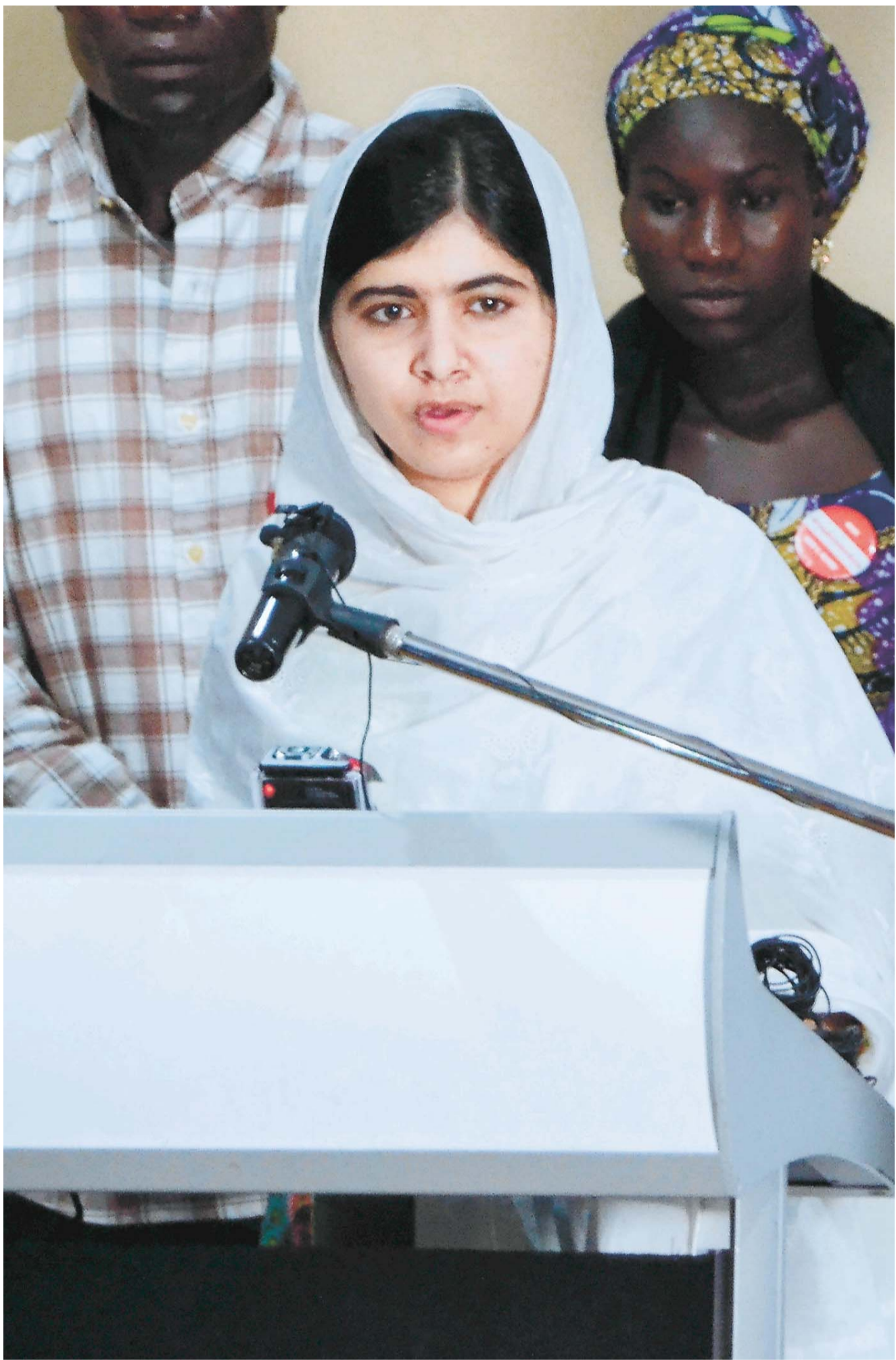
インドのサティヤルティさんも

タリバンに襲撃され重傷を負いながら女性や子供に教育機会を与える必要性を訴え続ける少女、マララ・ユスフザイさん(17)＝英国在住＝と、インドの児童人権活動家、カイラシュ・サティヤルティさん(60)の2人に2014年ノーベル平和賞を授与すると発表した。

委員長は2人への授賞理由について「抑圧された子供や女子教育の権利の向上に尽力した」としたうえで、特に重要な点として「ヒンズー教徒とイスラム教徒、インド人とパキスタン人が共に過激派に對抗し、教育を受けるといふ権利のために立ち向かった」と説明した。中東やアフリカでイスラム過激派の活動が活発になる中、子供の人権を訴

えるマララさんやサティヤルティさんをたたえることで、委員会は宗派や国籍を超え、過激思想と闘う必要性を国際的に強くアピールしたものとみられる。

マララさんはパキスタン北西部スワート渓谷でイスラム教徒(スンニ派)の家庭に生まれた。タリバン勢力による女子校破壊活動などを批判。12年10月、スクールバスに乗っていたところをタリバンのメンバーに襲われ頭や首に銃撃を受けた。マララさんは回復後も教育の重要性を訴える活動を続け、国連は昨年、マララさんの誕生日(7月12日)を「マララ・デー」と命名した。サティヤルティさんは、児童労働に反対するNPO「BBA」代表。インドで児童労働や人身売買などの犠牲となった子供を救う活動を続け、30年間で約8万人の子供たちを救った。



ノーベル平和賞受賞が決まったマララ・ユスフザイさん(左)とナイジェリアで今年7月14日、服部正法撮影

これまでのノーベル賞最年少受賞者は1915年に物理学賞を受賞した英国の故ローレンス・ブラッグ(当時25歳)。平和賞では11年に受賞したイエメン女性、タワックル・カルマンさん(当時32歳)。マララさんは全ノーベル賞で最年少の受賞者となった。